

町長 ● 今回の座談会は町制施行百周年の年にめぐりあった運命の出会いだと思います。今日は若い世代の方々にまちづくり、人づくりについて忌憚のないお話がうかがえるということで胸が躍動しています。将来の矢吹町のビジョン、まちづくりについてのお話をどうぞお聞きしたいですね。

浦井 ● 医療の面で矢吹町は進んでいると感じます。未就学者保育の医療費が無料になっていて、小さい子どもをもつ私の家庭などは経済的に助かっています。

町長 ● 現在、町では六歳未満の児童は医療費無料ということで対応していますが、子どもは成長していきますから、それにとりもなう援助支援も真剣に考えていかなければいけないですね。

地域の宝、 矢吹の未来を担う 子どもたちのために

奥川 ● 私は、ボランティアで子どもたちと一緒に活動していますが、子どもたちが安心して遊んだり活動できるような場所、そしてその活動を支援する団体がある、とほしいなと思います。



奥川 秀子さん

主婦。公民館での勤務経験を生かしボランティア森の番人でキャンプやハイキングなど子供を対象にした活動を行う。活動拠点の大池公園は魅力的な場所。



仲西 精一さん

書店経営。矢吹ふるさと塾所属。矢吹町の歴史や文化、自然を見つめ、ふるさとを支える人づくりを目指す。幸福寺のしだれ桜を守り、桜の名所にしたい。



浦井 敏弘さん

生花店経営。矢吹町駅前まちなみ協議会代表。まちづくりのための講演やシンポジウムで、町民の意識高揚を図る。好きな風景は駅舎の丸いガラス窓に映る夕陽。

りましたよね。安全に遊べるようにいろんな人が目を配っていた。町の発展というのは、地域の宝の子どもたちをいかに健全に育むかということにかかっている部分もありますから、地域の人たちも一緒に協力することが必要ですね。

鈴木 ● 私はここに来て二十年ほどになりますが、矢吹町の空気がとても好きです。人の顔が見えて楽しく活動ができる、そんな町が矢吹ではないかと思っています。でも今の日本では子どもの虐待などの問題も起きています。私にも経験がありますが、知らない町に来て赤ちゃんを産み、昼間二人つきりになるとするのは、母親にとつて精神的につらいことだと思います。出かけたとしても出られない、気持ちも休まらない、そんな母親のために二時的に子どもを預けられる制度があればいいなと思いますね。

小川 ● 地域通貨を利用する方法、例えば小さな子どもさんを二時間預かることを百ポイントに換算し、同じ地域のカメラ店でそのポイント分の何かが受けられるという地域独自の制度があってもいいですね。お年寄りのなかには、お孫さんのような世代とコミュニ

ケーションをとりたいという方も結構いらつしゃいます。こういった地域通貨を利用したコミニケーションの方法も考えられますよね。

大木 ● 高齢者からすれば、子どもが離れて住んでいるために世話をしてくれる人がいない、ということもあるんですね。それを解決するためにも、例えば年に二日だけ子どもも含めて町民全員が何か自分のできること、お年寄りの代わりに家の草むしりをする、ゴミを捨てるというような町民ボランティアの日があつてもいいのではないかと思っています。言葉で言わなくても、やつてもらえるところがたいことはいろいろとあるはずですよ。そういう活動を継続していけば、矢吹町の子どもたちも思いやりのある人に育っていくのではないかと思いますね。

国島 ● 昔はお互い助け合いましたよという気持ちが一番根底にありましたよね。今は人との付き合いがなくなること起きる問題も多い。社会福祉は精神面が大切ですね。

仲西 ● 私の所属する「矢吹ふるさと塾」は、矢吹町を心から愛し、歴史や文化産業、自然環境などを見つめて地域に調和したふるさ

御猟場構想 きじの里 矢吹町の新たな伝統をつくりたい

明治時代、矢吹町に開設された宮内庁管轄「岩瀬御猟場」に棲息したきじにちなみ「きじの里やぶぎ」をテーマに町おこしを進めている。推進協議会ではイベント等でマスコット「やぶぎくん」、きじ料理などを紹介。郷土愛を育む、新たな活動として期待される。

